

教科名	地歴・公民	校種	高等学校
-----	-------	----	------

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1年	公共	必	2	
	歴史総合	必	2	
2年	世界史探究	選	2	
	日本史探求	選	2	
	地理総合	選	2	
	政治経済	選	2	
	地理探究	選	2	
3年	世界史B	選	4	
	日本史B	選	2	
	選択日本史	選	2	
	地理B	選	2	
	倫理	選	2	
	日本史演習	選	2	
	選択政治経済	選	2	

科目名 (教科名)		公共 (公民科)			
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	1. 文化・環境・経済・政治の構造及び歴史的経緯を把握し、総合的に日本及び国際社会のあり方を考える。 2. 人類的課題を認識し、主体的に考察し、公正な判断力をつける。 3. 時事問題をトピック的に取り上げ、社会問題を自分に引きつけて考える。				
学期	授業の項目			内容	
1学期	社会を作る私たち 人間としてよく生きる 民主社会の倫理 民主国家における基本原理 日本国憲法の基本的性格			・人間とは何か ・幸福とは何か ・社会とは何か ・民主主義の作り方 ・憲法はなぜ大切なのか	
2学期	日本の政治機構と政治参加 現代の経済社会 経済活動のあり方と国民福祉			・政治参加の意義 ・経済における効率と平等とは何か ・人口減少時代の日本社会 ・都市と地方の持続可能な発展とは	
3学期	国際社会と人類の課題 国際経済の動向と課題 持続可能な社会づくり			・国家の安全と人間の安全 ・国際経済を席卷するプラットフォーム ・SDGsの実現に向けて ※上記授業計画は、適宜変更・入れ替えを行うことがある。	
評価の観点	【知識・技能】 (40%)	テストの得点、知識を問う発問への応答など		・定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断	
	【思考・判断力・表現】(30%)	テストの得点、資料などから思考力を問う発問への応答など		・定期試験の思考問題 (例) 意見記述、語句説明、論述問題	
	【主体的に学習に取り組む態度】(30%)	授業参加度や発言・質問内容、提出物など		・ノート作り ・授業参加度	
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 60 % 平常点 40 %				
教科書・副教材等	● 教科書 : 「詳細 公共」(出版社名) ● 副教材 : 「テーマ別資料 公共2022」(とうほう)				

科目名（教科名）		歴史総合（地理・歴史科）			
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	<p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けられるようにする。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>				
	学期	授業の項目		内容	
	1学期	近代化と私たち		<ul style="list-style-type: none"> ・欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 ・欧米諸国と日本の国民国家形成 ・帝国主義の時代 	
	2学期	国際秩序の変化や大衆化や私たち		<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と大衆社会 ・経済危機と第二次世界大戦 	
3学期	グローバル化と私たち		<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦と脱植民地化 ・多極化する世界 ・グローバル化と現代世界 <p>※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合がある。</p>		
評価の観点	【知識・技能】 (30%)	・年間5回行われる定期試験でいかに解けているかなど		<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の知識問題 (例) 正誤判断、読み取り 	
	【思考・判断力・表現】(40%)	・レポートなどの提出課題に書かれた感想、定期試験における論述問題や資料読解ができてきているかなど。		<ul style="list-style-type: none"> ・各授業で問うMQへの応答 (例) レポート、プリント 語句説明、定期試験における論述問題や資料読解など 	
	【主体的に学習に取り組む態度】(30%)	・授業内で取り組むミニッツペーパーやレポートで積極的に自らの意見を設定できているかなど。		<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り（ミニッツペーパー） ・各授業で問うMQに対する応答 ・授業態度 	
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・レポート・ミニッツペーパーを加味し総合点を算出する。 ● 割合：【知識・技能】：30%【思考・判断】：40%【主体】：30% <p>※評価方法と割合は必要に応じて変更する可能性がある。</p>				
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書：「歴史総合」（実教出版） ● 副教材：「問いからはじまる歴史総合」（とうほう） 				

科目名 (教科名)		世界史探究 (地理・歴史科)			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選 択
目 的	1. 現在の世界が、過去の様々な事象の積み重ねによって作られたものであることを理解し、自己の判断力・価値観・世界観形成の一助とする。				
	2. 歴史を世界的な視野で捉えることにより、他国・他民族への理解を深める。				
	3. 世界史に関する課題を探究する上で、諸資料の調査・考察の適切な方法を学び、生徒間で検討をおこなって答えを導き出す力を身につける。				
	4. 大学受験の準備にも応用できるように、適宜発展的な内容に取り組む。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	第1章 文明の成立と古代文明の特質			・文明の誕生 ・古代オリエント文明とその周辺	
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界			・南アジアの古代文明 ・中国の古代文明 ・南北アメリカ文明	
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開			・中央ユーラシア～草原とオアシスの世界～ ・秦、漢帝国	
	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成			・中国の動乱と変容 ・東アジア文化圏の形成	
2 学 期	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成			・仏教の成立と南アジアの統一国家	
	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向			・インド古典文化とヒンドゥー教の定着	
	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開			・東南アジア世界の形成と展開	
	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国			・イラン諸国家の興亡とイラン文明 ・ギリシア人の都市国家	
3 学 期	第9章 大交易・大交流の時代			・ローマと地中海支配 ・キリスト教の成立と発展	
	第10章 アジア諸帝国の繁栄			・アラブの大征服とイスラーム政権の成立	
				・ヨーロッパ世界の形成	
評 価 の 観 点	【知識・技能】(40%)	定期試験での得点、復習タイムでの知識の定着度			・定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断
	【思考・判断力・表現】(30%)	授業中の発問への応答、レポートなど提出課題の内容、史料・資料を読み取る力など			・定期試験の思考問題 (例) 語句説明、 論述問題 ・レポート ・発表
	【主体的に学習に取り組む態度】(30%)	授業態度、発言の積極性、グループワークでの積極性			・グループでの話し合い ・授業態度・課題の提出状況
評価の方法 と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・発表・授業態度を加味し総合点を算出する。				
	● 割合 : 定期試験 約70% 平常点 約30% ※ 割合は、必要に応じて変更する場合がある。				
教科書・ 副教材等	● 教科書 : 「詳説 世界史 世界史探究」(山川出版社)				
	● 副教材 : 「New Stage 世界史詳覧」(浜島書店)				

科目名(教科名)	日本史探究(地理・歴史科)				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 歴史を多角的・論争的に学習して、歴史を動かす要因及び歴史と人間の主体的な関わりについて考える。
2. 日本の歴史が、諸外国、特に東アジアとの関係の中で成り立っていることを学び、国際理解、近隣諸国への理解を深め、現在の国際関係などにも積極的な関心を持つようにする。
3. 過去に学ぶことは現代に生きる私たちの指針であることを理解する。

■ 授業計画

・近現代史は高1時の歴史総合で学習したので、当科目では前近代史を扱うこととする。

学期	授業の項目	内容
1学期	第1編 先史・古代の日本と東アジア	先史社会の生活と文化 歴史資料と先史/古代の展望 古代社会の形成と展開
2学期	第2編 中世の日本と世界	中世社会の成立 歴史資料と中世の展望 中世社会の展開
3学期	第3編 近世の日本と世界	近世社会の形成 歴史資料と近世の展望 近世社会の展開

評価の観点	【知識・技能】 (50%)	・定期試験(知識問題)における得点	定期試験の知識問題
	【思考・判断力・表現】 (20%)	・定期試験(考察・論述問題)やレポートなどの提出課題に書かれた考察など。	考察・論述問題 ・レポートその他の課題
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	・授業ノートや意見を述べる場での積極性など。	・振り返り(ノート記述) ・各授業での問いに対する応答 ・授業態度

評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ●評価方法：定期試験+授業プリント・ワーク課題・レポートなどの提出物の平常点 ●割合：定期試験60% 平常点40%
----------	--

教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書：「日本史探究」山川出版社 ●副教材：「新詳 日本史」浜島書店 ●ワークブック：「要点マスター日本史探究」東京書籍
----------	---

科目名 (教科名)		地理総合 (地理・歴史科)			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	(1) 地図資料や地理情報システム (GIS) で現代世界をとらえる。				
	(2) 系統地理的・地誌的な探究の方法を学ぶ学習を通して、地理的な見方や考え方や地理的技能を習得する。 (3) 広い視野に立ち、グローバル化する現代世界の諸課題について主体的に考え、行動する自覚と態度を養う。				
学期	授業の項目			内容	
1学期	国際協力と国際理解 (I) 生活文化の多様性と国際理解 (自然環境を中心に) 自然環境と防災			<ul style="list-style-type: none"> 世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活 日本の自然環境・自然災害 	
2学期	地図でとらえる現代世界 国際協力と国際理解 (II)			<ul style="list-style-type: none"> 地図と地理情報システム 結び付きを深める現代世界 現代世界の国家と領域・グローバル化する世界 世界の言語・宗教と人々の生活 歴史的背景と人々の生活 世界の産業と人々の生活 	
3学期	国際協力と国際理解 (III) 持続可能な地域づくりと私たち			<ul style="list-style-type: none"> 地球的課題と国際協力 地球環境問題、資源エネルギー問題、人口問題 食料問題、都市・居住問題 生活圏の調査と地域の展望 <p>※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合があります。</p>	
評価の観点	【知識・技能】 (40%)	基礎知識と習得と理解ができているか ※大学入試共通試験に対応できる力量も考慮する			<ul style="list-style-type: none"> 定期試験の知識問題 空欄補充・正誤判断など
	【思考・判断力・表現】 (30%)	知識や地理情報を活用して多面的に世界を見ることができるか 上記の知識を活用して現代世界の課題に着目できるか			<ul style="list-style-type: none"> 定期試験の思考問題 意見記述、文章読解、論述など レポート、発表など
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	系統的小および地誌的分野の知識や情報を手がかりとして、自分自身で興味・関心を深めていけるか			<ul style="list-style-type: none"> 授業中の質疑応答 提出物の内容や提出状況 レポートや発表の内容
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 65～70% 平常点 35～40% ※評価方法と割合は必要に応じて変更する可能性がある。 				
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「新地理総合」 (帝国書院), 「新詳高等地図」 (帝国書院) ● 副教材 : 「地理総合演習ノート」 (啓隆社), 「新詳地理資料COMPLETE」 (帝国書院) 				

科目名(教科名)	政治・経済(公民科)				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 私たちの日常生活とかかわりの深い政治・経済について理解し、社会のしくみへの関心を高める。
2. 現代の政治・経済に関わる諸課題について主体的に考え、表現する力をつける。
3. 時事的な出来事に関心を持ち、客観的な見方、考え方を身につける。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	第1編 現代の政治 1. 現代国家と民主政治 2. 日本国憲法と基本的人権 3. 日本の政治制度と政治参加 4. 現代の国際政治	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の成立や基本原理・各国の政治制度について理解する。 ・国際社会の変遷や国際法の意義、国際機構の役割について理解する。
	5. 日本の平和主義と国際平和 第2編 現代の経済 1. 現代の経済社会 2. 現代の日本経済と福祉の向上 3. 現代の国際経済	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障と国際貢献について理解する。 ・国際政治の特質や国際紛争の諸要因について理解し、日本の役割について考察する。 ・現代経済の特質を理解し、経済活動の在り方を考察する。 ・グローバル化が進む国際経済の特質や国際協調の必要性について理解し、国際経済における日本の役割について考察する。
3 学期	第3編 現代社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用と労働をめぐる問題、少子高齢社会と社会保障、地球環境と資源・エネルギー問題、経済格差の是正と国際協力、農業と食糧問題、人種・民族問題などについて政治を経済とを関連させて考察する。 <p>※上記授業計画は、適宜変更・入れ替えをおこなうことがある。</p>
評価の 観点	【知識・技能】	・年間5回行われる定期試験でいかに解けているかなど。
	【思考・判断力・表現】	・レポートなどの提出課題に書かれた感想、定期試験における論述問題や資料読解ができているかなど。
	【主体的に学習に取り組む態度】	・授業内で取り組むミニツペーパーやレポートで積極的に自らの意見を設定できているかなど。
評価の 方法と 割合	<p>●評価方法：定期試験における成績状況と提出物・レポート・ミニツペーパーを加味し総合点を算出する。</p> <p>●割合：【知識・技能】：40%【思考・判断】：30%【主体】：30%</p> <p>※評価方法と割合は必要に応じて変更する可能性がある。</p>	
教科書・ 副教材等	<p>●教科書：最新 政治・経済(実教出版)</p> <p>●副教材：政治・経済資料2022(実教出版)</p>	

科目名 (教科名)		地理探究 (地理・歴史科)			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択
目的	(1) 世界の地理的事象を系統地理的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。				
	(2) 現代世界の諸地域を、歴史的・文化的背景をふまえて地誌的に考察する方法を習得する。				
(3) 地理的な見方や考え方を培い、国際社会を主体的に生きるための自覚・資質を習得する。					
学期	授業の項目			内容	
1学期	資源と産業 (Ⅰ)			<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業, 食料問題 ・エネルギー・鉱産資源, エネルギー資源問題 	
2学期	資源と産業 (Ⅱ)			<ul style="list-style-type: none"> ・工業 ・第3次産業 	
	交通・通信と観光, 貿易			<ul style="list-style-type: none"> ・交通・通信 ・観光 ・貿易と経済圏 	
3学期	人口, 都市・村落 (Ⅰ)			<ul style="list-style-type: none"> ・人口, 人口問題 ・村落と都市 	
	人口, 都市・村落 (Ⅱ)			<ul style="list-style-type: none"> ・都市・居住問題 ・衣食住 ・民族・宗教と民族問題 ・国家の領域と領土問題 	
生活文化, 民族・宗教					
※地誌分野の履修は高3時に設定されているカリキュラムに継続されるためこのシラバスには含まれない。また地理総合と共通する単元の一部も、必要に応じて補足するので、このシラバスには含まない。なお、上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合がある。					
評価の観点	【知識・技能】 (40%)	基礎知識と習得と理解ができているか ※大学入試共通試験に対応できる力量も考慮する			<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の知識問題 空欄補充・正誤判断など
	【思考・判断力・表現】 (30%)	知識や地理情報を活用して多面的に世界を見ることができるか 上記の知識を活用して現代世界の課題に着目できるか			<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の思考問題 意見記述, 文章読解, 論述など ・レポート, 発表など
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	系統的小および地誌的分野の知識や情報を手がかりとして、自分自身で興味・関心を深めていけるか			<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の質疑応答 ・提出物の内容や提出状況 ・レポートや発表の内容
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 65~70% 平常点 35~40% ※評価方法と割合は必要に応じて変更する可能性がある。 				
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「新詳地理探究」 (帝国書院), 「新詳高等地図」 (帝国書院) ● 副教材 : 「新詳地理資料COMPLETE」 (帝国書院) 				

科目名 (教科名)		世界史B (地理・歴史科)			
学年	3	単位数	4	必修・選択・展開	選 択
目的	<p>1. 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、史料・資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。</p> <p>2. 文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に貢献するための自覚と資質を養う。</p> <p>3. 世界史で大学受験をめざすための知識や実力を修得する。</p>				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学期	※ 高2世界史Bで学習した内容の続き 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 アジア諸地域の繁栄 イスラーム世界の形成と発展 ヨーロッパ世界の形成と発展			<ul style="list-style-type: none"> ・ 東アジア文化圏の形成 ・ 東アジア諸地域の自立化 ・ モンゴルの大帝国 ・ 東アジア世界の動向 ・ 清代の中国と隣接諸地域 ・ インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 ・ 西ヨーロッパ中世世界の変容 	
2 学期	※ 夏休み以降に必要な問題集を適宜購入する 世界史Bでの大学受験をめざして、入試問題の演習			<ul style="list-style-type: none"> ・ 前半は、近現代史の復習を中心とした問題演習と生徒による解説・発表 ・ 後半は、大学入学共通テストや私立大学の過去問を中心とした問題演習と生徒による解説・発表 	
3 学期	世界史Bでの大学受験をめざして、入試問題の演習			<ul style="list-style-type: none"> ・ 国公立二次試験対策として、論述問題の演習など 	
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】 授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目する。</p> <p>【思考・判断・表現】 レポートなどの提出課題、及び問題解説時の内容や表現方法に着目する。</p> <p>【技能】 史料に対する取り組みや問題解説で作成した資料などに着目する。</p> <p>【知識・理解】 定期試験や模擬試験の得点に着目する。</p>				
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・発表・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 約70% 平常点 約30% 				
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「詳説 世界史B」山川出版社 ● 副教材 : 「New Stage 世界史詳覧」浜島書店 				

科目名 (教科名)		日本史B (地理・歴史科)			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択
目的	1. 歴史学を多角的・論理的に学習して、歴史を動かす要因について考える。 2. 日本の歴史が、諸外国との関係の中で成り立っていることを学ぶことにより、国際理解・近隣諸国への理解の必要性を感得し、 また、現在の国際関係などにも積極的な関心を持つようにする。 3. 過去に学ぶことを現代に生きる私たちの指針とし、未来への礎とする。				
学期	授業の項目			内容	
1学期	日本文化のあけぼの 律令国家の形成			・ 文化の始まり ・ 農耕社会の成立 ・ 古墳とヤマト政権 ・ 飛鳥の朝廷 ・ 律令国家への道	
2学期	貴族政治と国風文化 中世社会の成立			・ 平城京の時代 ・ 天平文化 ・ 平安王朝の形成 ・ 摂関政治 ・ 国風文化 ・ 地方政治の展開と武士 ・ 院政と兵士の台頭	
3学期	日本史学習を振り返って			・ 現在の私たちと歴史のつながりを考える	
評価の観点	【関心・意欲・態度】 授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目する。 【思考・判断・表現】 レポートなどの提出課題に書かれた感想などに着目する。 【技能】 ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料などに着目する。 【知識・理解】 定期試験や模擬試験の得点に着目する。				
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 約70% 平常点 約30%				
教科書・副教材等	● 教科書 : 「詳説 日本史B」 (山川出版社) ● 副教材 : 「新詳 日本史」 (浜島書店)				

科目名 (教科名)		選択日本史B (地理・歴史科)			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選 択
目的	1. 歴史を多角的に学習することにより、客観的思考を養い、現代社会のあり方を主体的に考える力を身につける。 2. 歴史を通して、日本と諸外国との関係を学び、平和な国際社会のあり方について考察する 3. 過去に学ぶことを現代に生きる私たちの指針とし、未来への礎とする。				
学 期	授 業 の 項 目		内 容		
1 学 期	中世社会の成立 武家社会の成長		・ 鎌倉幕府の成立、蒙古襲来と幕府の衰退 ・ 武士の社会、鎌倉文化 ・ 室町幕府の成立、幕府の衰退と庶民の台頭、室町文化 ・ 戦国大名の登場		
2 学 期	幕藩体制の確立 幕藩体制の展開		・ 織豊政権桃山文化 ・ 幕藩体制の成立、幕藩社会の構造 ・ 幕政の安定、経済の発展、元禄文化 ・ 幕政の改革、宝暦・天明期の文化		
3 学 期	幕藩体制の動揺		・ 幕府の衰退と近代への道、化政文化 ※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合があります。		
評価の 観点	【関心・意欲・ 態度】	・ 授業中の積極的な発言や質問、レポート等で自ら進んで課題を設定できているかなど。			
	【思考・判断 力・表現】	・ レポートなどの提出課題に書かれた感想など。			
	【技能】	・ ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料など			
	【知識・理解】	・ 年間4回行われる定期試験でいかに解けているかなど			
評価の 方法と 割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・レポートを加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 70 % 平常点 30 % ※評価方法と割合は必要に応じて変更する可能性がある。				
教科 書・ 副教材 等	● 教科書 : 「詳説 日本史B」山川出版社 ● 副教材 : 「新詳 日本史」浜島書店,				

科目名(教科名)	地理B (地理・歴史科)				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

<p>1. 現代世界の地理的事象を系統的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。</p> <p>2. 現代世界の諸地域を、歴史的・文化的背景をふまえて地誌的に考察する方法を修得する。</p> <p>3. 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚・資質を体得する。</p>

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・資源と産業（高2の続き） ・人口・村落・都市 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の工業 ・第三次産業 ・交通・通信，情報 ・現代世界の貿易と経済圏 ・世界の人口，人口問題 ・都市と村落，都市・居住問題
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の衣食住 ・民族と宗教 ・現代世界の地誌的考察 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の衣食住の地域的差異 衣食住の画一化，日本の衣食住 ・世界の民族、言語、宗教 民族問題，地域紛争，領土問題 ・世界地誌 <p>※上記授業計画は、授業展開の都合や生徒の状況から、適宜変更する場合がある。</p>
3学期		
評価の観点	【関心・意欲・態度】	授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目する。
	【思考・判断・表現】	レポートなどの提出課題に書かれた感想などに着目する。
	【技能】	ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料などに着目する。
	【知識・理解】	定期試験や模擬試験の得点に着目する。
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期テスト+ノート、提出物など平常点を加味して評価する。 ● 割合 : 定期テスト70%+平常点30% 	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「新詳地理B」帝国書院 ● 副教材 : 「新詳高等地図」帝国書院、「二訂版 最新地理図表GEO」第一学習社 「新地理の研究」啓隆社 	

科目名(教科名)	倫理(公民科)				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 「人間はいかに生きるべきか」・「人生はいかにあるべきか」について、先人の思索の成果を学ぶ。
2. 人類が辿ってきた倫理的・哲学的課題を考えることを通して、人間のあり方・生き方について、現代社会に生きる自らのこととして主体的に考察する。
3. 過去の「共通テスト」の演習を実施し、大学入試に対応する。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・(青年期の課題と自己形成) ・人間としての自覚 ・現代に生きる人間の倫理 	<ul style="list-style-type: none"> ・(必修の「現代社会」の授業で学習) ・古代ギリシャの思想(ソクラテス・プラトン・アリストテレス) ・ユダヤ教とキリスト教、イスラム教 ・人間の尊厳と生命尊重(ルネサンス・宗教改革・モラリスト) ・近代科学の哲学(ガリレイ・ニュートン・科学革命・ベーコン・デカルト) ・民主社会と幸福(社会契約説・功利主義・初期社会主義) ・自己実現と社会参加(カント・ヘーゲル・マルクス)
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に生きる人間の倫理(続き) ・人間としての自覚(続き) ・国際社会に生きる日本人 ・(現代の諸課題と倫理) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己実現と社会参加(実存主義・プラグマティズム) ・新しい時代への扉(フロイト・ユング・構造主義・フランクフルト学派・セン) ・古代インド思想・仏教 ・中国思想・儒学 ・日本の風土と人々の考え方 ・日本の仏教 ・日本の儒教 ・国学と近世民衆・近代日本の思想 ・(必修の「現代社会」の授業で学習)
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学と現代(まとめ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に生きる我々の倫理・哲学的課題を考える。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 【思考・判断・表現】 【技能】 【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目する。 レポートなどの提出課題に書かれた感想などに着目する。 ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料などに着目する。 定期試験や模擬試験の得点に着目する。
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <教科書>「高等学校 新倫理」清水書院 <副教材>「最新図説 倫理」浜島書店 	

科目名(教科名)	日本史演習 (地理・歴史科)				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 日本史で大学受験をめざす者に対する、受験知識を中心に学習する。
2. 日本史Bで学習しきれなかった戦後史を学ぶ。
3. 受験に必要な史料の読解、図説・資料の解説、および私学・センター入試対策としての問題演習を行う。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	第二次世界大戦の終結から 冷戦の終結までを概観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太平洋戦争 ・ 占領と改革 ・ 冷戦の開始と講話 ・ 55年体制 ・ 経済復興から高度成長へ ・ 冷戦の終結
2学期	分野史 入試問題演習	職制、法制、北方(アイヌ)・琉球、外交・条約、土地制度・税制などの分野ごとの通史を把握する <ul style="list-style-type: none"> ・ 史料集・資料集の中から重要・頻出の史料・資料を選んで、そのポイント・用語・意味を学習する。 ・ 共通テスト対策、私大対策として、過去問題、類似問題に多く当たり、出題者の意図や解答の際の着目点などを含めた解説を行う。
3学期	入試問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ (同上) ※上記授業計画は、必要に応じて入れ替えを行う場合がある。
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	授業態度・出欠度数
	【思考・判断・表現】	授業中の発問、論述題の得点
	【技能】	史料問題に対する得点
	【知識・理解】	知識を問う問題への得点
評価の 方法と 割合	適宜行う演習問題・入試過去問題などではかる	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「詳説 日本史B」山川出版社 ● 副教材 : 「新詳 日本史」浜島書店 必要に応じて、問題集を購入させる場合がある。	

科目名(教科名)	選択政治経済(公民科)				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 私たちの日常生活と関わりの深い政治・経済について理解し、社会の仕組みへの関心を高める。
2. 人生を主体的に生きていくための判断基準を構築し、表現できるようにする。
3. 時事的な出来事に関心をもち自分の考えを持つ「賢い大人」になる。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	2. 現代の経済 (3) 現代の国際経済 3. 現代社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国際経済のしくみ・動向、発展途上国の課題について学習する。 ・これまで学んだことをもとに、地球環境問題をはじめとする現代社会の諸課題について、テーマ別に考察を深める
2 学期	◇共通テスト問題演習(分野別) 1. 現代の政治 2. 現代の経済	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した範囲について問題演習を行う。 センターテスト・共通テストの過去問 私大入試の過去問 ・新聞記事などを利用した論述問題演習
3 学期	◇直前演習 ・弱点について知識の整理を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・私大入試の過去問
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	・授業態度や発言・質問内容
	【思考・判断・表現】	・論述問題やレポート課題など
	【技能】	・図版・グラフなどの資料の読み取りを小テストなど
	【知識・理解】	・定期テストの成績
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ●評価方法：定期テスト＋ノート・提出物・課題レポートなど平常点を加味して評価する。 ●割合：定期テスト70%＋平常点30%(学期レポート・提出物・授業態度等) 	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書：「最新 政治・経済」実教出版 ●副教材：「政治・経済資料」とうほう 	